



議会だより 体育祭



越前地区体育大会

アメはどこに
あるのかな？



宮崎地区体育祭

はぴりゅうと
いっしょに
よーいどん！



織田地区区民体育祭

老いも若きも
がんばって！

- ◆ 臨時会・定例会報告 2p～ 3p
- ◆ 一般質問 4p～ 12p
- ◆ 議員の議会・委員会等出欠状況 13p
- ◆ 一般質問～その後～ 14p～ 15p
- ◆ がんばってます！・編集後記 16p

第1回臨時会

会期 5月24日

6月定例会

会期 6月12日～15日

専決処分の承認

平成29年度越前町一般会計補正予算

2,850千円

〈臨時福祉給付金給付事業〉

年金生活者等支援臨時福祉給付金給付事業費補助金交付額が決定し、超過交付となった補助金を返還する予算を計上。

平成30年度越前町温泉事業特別会計

補正予算 5,454千円

〈温泉施設管理事業〉

南部地区温泉施設内の源泉ポンプの故障により、修繕工事費を計上。

平成30年度光ヶ丘大橋補修工事
請負契約について

- ◇ 契約金額 … 61,344千円
- ◇ 請負者 … 日光産業(株)
- ◇ 請負率 … 94.824%



光ヶ丘大橋

＜第1回臨時会に提出された議案等＞

議案番号	件名	議決の結果
報告第 3 号	専決処分の報告について（和解について）	報告のみ
承認第 7 号	専決処分の承認を求めることについて（平成29年度越前町一般会計補正予算（第17号））	全会一致可決
承認第 8 号	専決処分の承認を求めることについて（越前町税条例等の一部改正について）	全会一致可決
承認第 9 号	専決処分の承認を求めることについて（越前町国民健康保険税条例の一部改正について）	全会一致可決
承認第10号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度越前町一般会計補正予算（第1号））	全会一致可決
承認第11号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度越前町温泉事業特別会計補正予算（第1号））	全会一致可決
承認第12号	専決処分の承認を求めることについて（平成30年度越前町一般会計補正予算（第2号））	全会一致可決
議案第41号	平成30年度光ヶ丘大橋補修工事請負契約について	全会一致可決

町長陳謝

織田児童館移転新築
資料不備

15日定例会の冒頭、町長は本年度一般会計補正予算案について、当初予算の審議時の資料の一部で、整合性を欠いたものがあったとした。

議長は「議案に関して議会は、十分精査された資料を前提で審議している。今後、慎重に資料を作成すべき」と指摘。

町長は、「本定例会に提出した平成30年度越前町一般会計補正予算のうち、民生費の織田児童館建設事業費に関し、内容説明の過程で提出した資料に整合性を欠き、結果、審議を混乱させ疑義を抱かせたことは、まことに遺憾であり、心からおわびを申し上げる。今後、このようなことがないよう十分に注意し、緊張感と誠意を持って行政を執行してまいりたい。」と陳謝した。

補正予算

織田児童館建設事業

（委託料・工事請負費）

6,346千円

児童が伸び伸びと安全に利用できるように施設整備するため、委託料と工事費を計上。

本庁舎整備事業

（委託料・工事請負費）

18,800千円

町本庁舎整備のため、上下水道の設計業務委託料及び工事費を計上。

県単小規模土地改良事業

（委託料・工事請負費）

18,300千円

農業用排水路改修等の測量設計委託料と工事費を計上。

県単林道事業（工事請負費）

11,400千円

森林の適正な管理と林道の通行の安全を図るため、工事費を計上。

こんなことを審議しました

社会資本整備総合交付金事業
（委託料・工事請負費）

173,000千円

道路網の構築や道路構造物の長寿命化を図るため、委託料と工事費を計上。



町道消雪設備

除雪事業（備品購入費他）

50,870千円

除雪ドーザ、ロータリー除雪車の購入費を計上。



除雪ドーザ(イメージ)

条例

越前町税条例の一部改正について

中小事業者等が取得する一定の機械装置等について、固定資産税の特例率を3年間ゼロとしました。

越前町農村環境改善センター

条例の一部改正について

町役場本庁舎整備に伴い、越前町朝日農村環境改善センターを廃止するため、条例の改正をしました。

丹南都市計画事業気比庄土地区画
整理事業施行規程に関する条例の
廃止について

平成26年から実施した丹南都市計画事業気比庄土地区画整理事業が完了したため、条例を廃止しました。

越前町屋外運動場条例等の

一部改正について

「福井県体育協会」が「福井県スポーツ協会」にまた「町体育協会」が「町スポーツ協会」に名称変更したことに伴い、関係条例を改正しました。

＜6月定例会に提出された議案等＞

議案番号	件名	議決の結果
報告第 4 号	平成29年度越前町一般会計継続費繰越計算書	報告のみ
報告第 5 号	平成29年度越前町一般会計繰越明許費繰越計算書	報告のみ
報告第 6 号	平成29年度越前町一般会計事故繰越し繰越計算書	報告のみ
議案第 42 号	越前町税条例の一部改正について	全会一致可決
議案第 43 号	越前町農村環境改善センター条例の一部改正について	全会一致可決
議案第 44 号	丹南都市計画事業気比庄土地区画整理事業施行規程に関する条例の廃止について	全会一致可決
議案第 45 号	越前町屋外運動場条例等の一部改正について	全会一致可決
議案第 46 号	平成30年度越前町一般会計補正予算（第3号）	全会一致可決
議案第 47 号	平成30年度越前町介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	全会一致可決
議案第 48 号	平成30年度越前町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）	全会一致可決
議案第 49 号	平成30年度越前町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）	全会一致可決
議案第 50 号	平成30年度越前町集落排水事業特別会計補正予算（第1号）	全会一致可決
議案第 51 号	平成30年度越前町温泉事業特別会計補正予算（第2号）	全会一致可決
議案第 52 号	平成30年度越前町上水道事業会計補正予算（第1号）	全会一致可決



木村 繁 議員

町の自主防災組織の中には、既に要支援者の近隣の方々を防災サポーター的な避難協力者として登録している組織もあり、今後自主防災組織が結成されない区に対しては、積極的に組

要支援者名簿や避難場所までの避難計画が記載された、避難行動要支援者台帳を策定し、災害に備えている。

また、福祉課と区長や民生委員と情報を共有している災害時要支援者登録申請書兼登録台帳をもとに、防災安全課において、

町長

町では国から示された災害時要支援者の避難支援ガイドラインに基づき、平成20年に災害時要支援者台帳を策定している。

木村

災害時における「要支援者」の 防災対策について

災害対策基本法の改正で、要支援者の名簿作成が義務づけられ、災害時には、これらの情報を自主防災組織に伝え、要支援者の救援に役立てられると思うが、名簿の作成状況、名簿活用を通しての要支援者の避難計画の策定、また要支援者を手助けするサポーター制度について伺う。

質問

一般質問とは、議員が行財政全般にわたって町に疑問点をだし、所信の表明を求めるもの

伊部 良美 議員



一般県道越前織田線の崩壊事故その後

伊部

今回の事故調査の結果を重く見ると、崩壊した山の周辺一帯は真砂土という地質で、気象条件にかかわらず、いつ崩壊が起きても決して不思議ではない、非常に危険をはらんだ山肌と考える。もっと真剣に考え、県に人命優先を第一にした角度で、積極的に働きかけるべきと考えられるが、町長の考えを伺う。

町長

町道道口中線として昭和63年に開通し、その後平成8年に一般県道越前織田線として県道昇格を果たし、平成13年に道路防災対策として、延長1キロにわたり道路のり面の吹付工事や落石防止工事などが実施されたことにより、安全性の向上が図られた。

また、平成14年から21年にかけては狭い区間の道路拡張工事を、延長850メートルにわたり施工されたことに伴い、より走りやすい道路として生まれ変わり、普通車両はもとより、大型車両の通行台数が飛躍的に増加した。当路

線が開通するまでの間、南北に長い越前地区において、北に国道365号、南に主要地方道武生米ノ線が通っていたが、越前地区の中央部には直接織田地区へとつながる道路が整備されておらず、当路線の供用開始により、町の中央部に位置する地域住民にとって、待望の道路がようやく開通したことで、喜びもひとしおであったと伺っている。

しかしながら、織田地区の上山中地係から越前トンネルを抜け、越前地区に向かつての約800メートルの区間は、急カーブが連続する急勾配の下り坂となっており、冬期間においては、路面の凍結や積雪などが原因による交通渋滞や交通事故が毎年のように発生し、車両通行に支障を来している。

このようなことから、当路線の安全で安心な道路の再整備は喫緊の課題と考えており、町としては、今後、当該箇所における抜本的な安全対策を進めるよう、県当局に対し要望したいと考えている。



崩壊現場

あることから、今回の崩壊斜面の本格的な復旧に加え、この区間を回避する新しいトンネルの整備について検討し、早期に事業化を図るよう強く要望したい。

この施設は、文化祭や夏の音楽祭、最近では台風21号の集中豪雨の際、数世帯の方が避難所として利用し、地域住民のために大きな役割を果たしている。

町長

役場内の関係部門で検討してきたが、現時点では結論が出ていない。今後、検討委員会での意見や地区内の意見を集約し、地区区長会等の理解を得た上で、方向性を示していきたい。

町としては、越前サブコミュニティセンターの機能を維持し、その必要性も含め、越前地区の課題である地区外への若者の流出等を解決するコンセプトも必要だと考えている。これらを進めるに当たり、財源の確保のため、さまざまな補助事業等を模索していきたい。

越前サブコミュニティ センターの建設について

伊部

建設について、いつまでも日本海の荒海を漂流している難破船のような話ではなく、着地点を見つけての考えを伺う。

橋本左内・蟬丸法師で 地域起こしを

木村

現在、幕末明治福井150年博が開催されているが、その中で、福井の先人たちの一人として登場するのが幕末の志士で、朝日地区と結びつきが強い橋本左内。このことを、町内外に強くアピールし、地域の活性化、ひいては町の知名度向上を図っていくことについて伺う。

町長

幕末の志士、橋本左内は宝泉寺幸若分家、橋本家の15代であり、みずからも幸若家の子孫であることを強く意識していたことが知られている。幸若舞は、室町時代に当町で誕生し、日本中世を代表する芸能となり、江戸時代には幕府の式楽に認められた。当町のこれまでの取り組みとして、幸若舞発祥の地であること

を顕彰するため、幸若舞リーフレットの刊行、説明看板設置などを行うとともに、橋本左内についても取り上げており、多くの方々にとつながりについて知っていただける環境が整いつつある。

また、本年度の幕末明治福井150年博に合わせ、織田文化歴史館では、橋本左内の彫刻を展示し、幸若舞と橋本左内に関するパネルも製作している。また、町立図書館のエントランスでは、利用者の方々目につくよう橋本左内に関するコーナーを設置し、当町と橋本左内との関係について広くPRする予定で、幸若舞の顕彰に努めるとともに、地域の活性化や町の知名度向上を図っていききたい。

木村

盲目で琵琶の名人、蟬丸は諸国を流浪の果て、越前に来て旧宮崎村にたどり着いた。やがて病気になる、村人に、私が死んだら七尾七谷の真ん中に埋めてくれと遺言を残して亡くなった。その場所が、町の陶の谷地区で、現在3基の五輪の塔が並んでおり、その中の1基が蟬丸の墓と伝えられている。



蟬丸の墓



高田 浩樹 議員

いっぱん 質問

一般質問とは、議員が行財政全般にわたって町に疑問点をだし、所信の表明を求めるもの



笠原 秀樹 議員

公共施設の現状と今後の運営方針について

笠原

人口の減少や高齢化により、町内にある公共施設の利用者も減少し、国からの交付金等も段階的に縮小されるなか、今後町は、公共施設に対してどう取り組んでいくのか。

町管理の公共施設の総数と地区別の数、また今後廃止を予定している公共施設数について伺う。

総務理事

平成29年7月1日現在、町の公共施設の総数は307施設ある。地区別では、朝日地区71施設、宮崎地区66施設、越前地区103施設、織田地区67施設となっている。また、廃止を予定している施設については、14施設ある。

笠原

経費や税金の投入を少なくするよう、町は指定管理者制度を設けているが、制度を利用している施設数と公共施設全体に占める割合、また、町公共施設管理公社の割合について伺う。

総務理事

平成29年度現在、指定管理者制度を利用している施設は43施設で公共施設全体の約14%を占めており、町公共施設管理公社を含め11団体ある。町公共施設管理公社が管理している施設数の割合は、約51%となっている。

笠原

指定管理料、施設の利用状況、収支状況、収益納付について伺う。

総務理事

平成29年度の指定管理料について、各施設により協定で決められており、町公共施設管理公社の22施設で2億6000万円、陶の谷保育所で3700万円、織田保育所で5500万円、朝日保育所で1億5200万円、朝日児童センターで2520万5000円、泰澄の杜で1196万円となっている。

また、平成29年度の利用状況については、泰澄の杜で年間利用者数9万4521人、朝日児童センター12万582人、道の駅越前87万3583人、オタイコ・ヒ

ルズ1万2618人、悠久ロマンの杜6067人、道の駅パークイン丹生ヶ丘3万360人となっている。

平成29年度の収支状況及び収益納付については、正式な数字はまだ出ていないが、黒字の施設は、泰澄の杜、オタイコ・ヒルズ、おもいでな、織田病院などとなっており、利益が生じた場合は協定に基づき納付して頂くことになる。

笠原

町長に答弁を求めるが、町長としては、企業（株式会社越前町）の社長の立場での考えは。

町長

町管理の公共施設を307施設抱え、今後段階的に交付税が減少していく中、平成20年7月に作成した、施設の管理運営方針に示した14施設の廃止を予定している。将来を見据えると、施設の維持管理経費の抑制は必須であると考えている。

指定管理者との協定期間が、平成31・32年度に一斉に迎えるので、昨年の7月に担当課に各施設の利用状況調査を指示し、10月の政策ヒアリングにおいて所属課の意見をまとめ、各施設の見直しの検討を行った。問題の施設には、住民

サービスの低下を招かないよう、新たな指定管理への移行や統合、建て替え、譲渡、または廃止などの方針の見直しを早期に意思決定し、実行していきたい。

笠原

合併前、各地区で施設を建設してきたが、現在では負の遺産状態になっている施設も数ある。それをいつまでもこのままの状態でおくことは、よくない。使用していない施設でも何らかの形で費用がかかり、町民の税金が使われているので、税金の投入が少なくなるよう、使用していない施設は廃止し、必要な施設のみ最小限に絞っていく必要がある。

また指定管理者の見直しについて、指定管理者の中には一人でも多く利用者を増やそうと努力をしている施設もあり、指定期間が切れる契約の見直しの際は、管理者と協議をして努力の結果を出してほしい。

子や孫までも、多くの負の遺産として決して残してはならない事を強く要望して、質問を終わらせていただく。



道の駅「越前」

最新の推計人口と対策

高田

今年3月、公表された国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の本町における将来推計人口は、2015年の2万1538人から2045年には1万2121人との推移であり、5年前公表の推計より大幅な減少傾向となった。今回の社人研の結果の要因について伺う。

総務理事

要因としては、出生率の低さと、転出者が転入者を上回る社会動態における減少の改善が進んでいなかったためと考える。

高田

本町の人口ビジョンの将来目標人口は、2025年で2万1000人、今年5月1日現在、推計人口は2万653人と既にそれを下回っている。この目標は、総合振興計画や総合戦略にも反映されているが、変更の考えは。

総務理事

本町の人口ビジョンは、施策により改善させる目標値として設定。今後の努力目標義務を課している。今後の動向を見ながら、必要であれば改正していきたいと考えている。

高田

人口減少対策としてどのような施策を行ってきたのか、また、有効だと考える事業は。

総務理事

産業振興として7事業、雇用機会の創出として9事業、移住定住促進に向けた住環境や交通環境の整備として16事業、交流促進として2事業、また、結婚、子育て、出産などの環境づくりとして4事業を実施。

特に、本年設置した「子育て世代包括支援センター」に期待している。

高田

PDC Aサイクルに基づく進捗管理、評価や検証に関する体制等の実際の実施状況は。

総務理事

評価や分析について昨年度、総合振興計画審議会による進捗会議を行った。

今後、社人研の結果を受けてワーキンググループを招集、評価や分析に必要なPDC Aサイクル等の実施を考えている。

高田

今回の社人研の結果や人口減少

少対策について、住民との情報共有が大切だと考えるが。

総務理事

町の広報もしくはホームページ等で周知していきたいと考えている。

高田

2040年頃をターゲットに人口構造の変化に対応した自治体行政のあり方について、総務大臣主催の「自治体戦略2040構想研究会」の第一次報告が公表されたが、この所感について伺う。

総務理事

若者を吸収しながら老いていく東京圏と支え手を失う地方圏、標準的な人生設計の消滅による雇用、教育の機能不全、スポンジ化する都市と朽ち果てるインフラといった内容が報告されていた。

本町として地域活力を維持していくための施策を実施し、持続可能な形で、住民サービスを提供できよう考えていく。

高田

今後も未来に向けて長期的なプランでの検討をお願いする。また、この報告には、急激な人口減少と高齢化が進むなか、テクノロジの進展に着目、活用していく視点が、本町においても課題解決等に対する有用性について

て研究や検討をしていくことが大切だと考える。

高田

最新の推計人口、今後の対策について町長の所見を伺う。

町長

社人研の将来推計人口が公表され、2045年、本町の人口が1万2121人になるとの報告は、予想以上の減少であり、驚いている。

人口減少に歯止めをかけ地域活力を維持するためには、子どもを産み育て、転出者を抑えながら、町外からの移住者を増やし、人口が減少しても、経済力を維持していけるよう、本町の魅力を全国に情報発信し続け、交流人口を増加させることが必要だと考えている。

先のことだと先延ばしせず、できることから手がけ、一過性ではなく、持続可能な施策を展開し、人口対策と地方創生を推進していきたいと考えている。

高田

2045年に本町の人口が、1万2000人にならないよう、まずもって現状と将来推計に関する認識、そしてあらゆる角度から知恵を出し、対策を講じていくことが重要だと考える。



齋藤 稔 議員

建設理事

今年のは、37年ぶりの大雪で、町でも雪害対策本部を設置し、県においても、大動脈である国道8号線が通行不能になった。また、北陸道もストップになり、そういう中で、経済的な打撃も相当あったと思う。町の基幹産業においても、被害が見え隠れしているように感じている。今年の2月の集中的な寒波による、記録的な大雪の除雪作業だったが、町民からの問い合わせなどの対応はどうだったか。

今年のは、2月5日午前8時4分に大雪警報が発表され、その後、降雪は一旦終息に向かったが、2月11日から再び連続して雪が降り積もり、2月13日には朝日地区で122センチ、織田地区で121センチの積雪深を記録し、さらにこの期間に急激に気温が低下し、町内全域において路面が圧雪状態となり、車両の通行が非常に危険な状態にあった。

今回の大雪に関しては、特に家屋が密集している集落内の狹隘道路や住宅団地内の道路において、

建設理事

予想外の積雪により、除雪作業が阻まれ、除雪車が立ち往生した。また、山合いに位置する集落内の道路においては、当該路線の除雪を担当している業者が、他路線の除雪を完了するまでに相当の時間を要し、当該路線までたどり着けないという事態も生じていた。

こうしたことから、連日町民の方から、除雪要請や苦情の電話が、間を置かずして相次ぎ、所管課の職員はその対応に追われていた。

齋藤

除雪作業を委託しているが、事業者の高齢化問題など、いろいろな問題があると聞いている。そんな中で一番心配することは、小さな集落や谷合いにある集落など、そこまでの道のりの作業が、大変困難を極めるということ。除雪作業にも限界があると思うが、除雪の遅れに対する危機管理意識はどうだったか。

建設理事

委託業者への除雪作業の出動要請については、所管課職員の道路パトロールによる状況確認を経

て、午前3時ごろをめぐりに出動要請を行うところだが、今回は所管課職員の道路パトロールを待たずして、積雪の状況を見て早目早目の出動要請を行った。

齋藤

今後の課題として、大野市、勝山市など奥越地方の除雪の取り組み方を参考にしながら、取り組むかどうか。今後、より一層の万全を期して取り組むべきものは何か。

建設理事

大野市では、土木建設業者など74社に委託、勝山市では、40社に委託しており、両市ともに一部の路線において、市の職員が除雪作業を行っている。

また、今回の大雪の除雪状況について、両市ともに除雪作業に要する時間が平常時の2倍から3倍を要し、二、三日程度の除雪の遅れが目立ったということだった。

県内の各自治体の除雪体制や取り組みを参考に、大雪への対応をしっかりと検証し、今後の除雪業務に反映させていきたい。



除雪作業

いっぱい質問

一般質問とは、議員が行財政全般にわたって町に疑問点をだし、所信の表明を求めるもの



青柳 良彦 議員

観光振興について

青柳

観光立町を目指す上で、具体的に何を目的としているのか。

町長

観光産業は、裾野の広い産業であり、観光消費による地域全体への生産波及効果や雇用創出効果が期待され、地域全体への経済効果を図ることで地域に活力がみなぎり、地域経済が潤うことを目的として観光立町を目指している。

青柳

地域内でお金を回すという意識が薄くなっている。観光産業は、他の産業から生産品や製品を供給されて成立しているという点についての考えは。

町長

観光の目指すところは、地域の経済をよくすることであるが、まだ途中の状態であるから、いろいろな方策を考えていきたい。

青柳

現在、実施している観光行政とその他の行政とのバランスは。

町長

観光だけに力を入れていることはなく、商工業、農林水産、全てにいろいろな形で全力を投じ、バランスをとった形で進めている。

青柳

町民にうまく伝わっていないのでは。

町長

事あるごとに関係者と話をしながら、情報発信に努めていく。

青柳

財政状況が厳しくなる中、入込み客数400万人を目指すための具体策は。

町長

3本の柱を考えている。一つ目は、観光資源の磨き上げとして、既存の観光資源を磨き、新たな観光資源の開拓。オール越前町民によるおもてなし運動の検討。二つ目は、受け入れ基盤の充実として、JR駅等からの交通アクセスの確保、観光ルートの整備、インバウンドの取り込み、旅館などの老朽化に伴う宿泊施設の環境整備等の充実が必要と考えている。三

つ目は、観光客のニーズに対応した効果的な情報発信をしていく。目標の400万人は大変ハードルが高いが、創意工夫に努め、挑戦していきたい。

青柳

これからの観光業は専門性が高くなるが、人材育成についての考えは。

町長

外部からの人材も取り入れながら、オール越前で進めていきたい。

青柳

専門的知識を有する職員を育てる考えは。

町長

町としては、総合的な人材育成も大事であり、総合的に人事異動を進めてきている。観光面でも配慮をした形で、これからも進めていく。

青柳

福井国体、新幹線開業に向けての観光戦略は。

町長

オール越前町民によるおもてなし運動を展開すること。観光産業関係者にも自己研鑽を重ねていただき、リピーターを呼び込むきつ

かけになると考える。新たな観光客を呼び込むために、丹南地域の観光資源を結ぶ観光ルートの構築や情報発信に努める。

青柳

内藤町政6年目を迎え、現在までの観光行政の結果と反省点、そして今後観光にける町長の熱い思いは。

町長

平成25年を就任当時観光関連には、約3億4631万を投じ、平成29年度には、約6億6527万円と5年間で、約3億1895万円の増。来訪者数は、約123万人に対し、約229万人で約106万人の増。宿泊者数は、10万4557人に対し、10万8066人で3509人の増。町民の合計所得額は、281億円に対し、293億円と人口が減っている中で12億円の増額となっているので、少なくとも観光行政における経済効果があつたものと考えている。

行政主導による展開にも限界があり、民間企業の視点による新たな試みも必要である。何より、町民の皆さんの力添えがなければ到底なし得ないことであると考えている。

齋藤

町長は、町民の安全・安心を理念に持っているが、対策本部長として、今年のは大雪に対して思ったことの所見を伺う。

町長

今回の大雪は37年ぶりという、かなりの人が未経験のこのような大雪に対して、除雪体制は十分とは言えないまでも、概ね良好だったのではないかと。町民の方には、防災無線で状況を報告し、安心を与えることができた。大雪に対しての体制づくりは、なかなか厳しいものがあり、除雪機械の不備、老朽化の問題など、考えなければならぬこともあるが、ご指摘を真摯に受けとめ、除雪の体制づくりの準備を進めたい。



田中 太左工門 議員

いっぱん 質問

一般質問とは、議員が行財政全般にわたって町に疑問点をだし、所信の表明を求めるもの



米沢 康彦 議員

越前漁港の漁船上架施設について

米沢 漁船上架施設の現状と内容並びに利用状況について伺いたい。

産業理事

漁船上架施設は、漁船船底部等のメンテナンスのために漁船を陸上に引き上げる施設で、斜路式と吊り上げ式がある。町内漁港の既存施設は全て斜路式で、小型底曳き船等が利用しているが、近年の新造船は船底の構造上、斜路に直接引き揚げられず利用が減少している。

米沢

漁船上架施設の整備概要や運用等について、どのように計画しているのか伺いたい。

産業理事

漁船上架施設整備検討委員会では、西側の船揚げ場を候補地とし、斜路にレールを敷設して、漁船を台車に固定し引き揚げるレール式を採用したいと考えている。事業費は約2億円程度と見込み、町漁協で管理組合を組織し、利用料収入で維持管理費を賄い運営していく。

米沢

漁船上架施設整備事業の採択見込み等、現況について町長に伺いたい。

町長

越前漁港の上架施設整備は、漁業者に必要な施設と考え、町及び漁協の負担

地域との競合は考えているのか？

田中

道の駅越前の軽食コーナーの運用方法や契約、募集方法についての行政財産使用許可の進め方について伺う。

町長

行政財産は原則として、貸し付けすることを認めていない。しかし、本来の目的外に使用させても、財産の用途や目的を妨げず、行政財産自体の効用そのものを高める場合は、その使用を許可することができる。道の駅越前は、町民福祉の向上と観光事業の振興と発展につながる。契約は、施設利用者の食事及び飲食物の提供について、地方自治法並びに越前町財務規則に基づき、共有財産使用許可書により、当該スペースの使用を1年ごとに許可、更新し、使用料を徴収している。

田中

他の飲食店との競合はどう考えているのか？

町長

他店との競合とかいう意識ではなく、道の駅へ来られた方、あるいは町へ来られた方が立ち寄るところ、食事をする場所と考えている。

担をできる限り軽減できるよう国・県に対し、有利な補助事業の採択を強く要望している。

米沢

越前漁港は、県管理の4種港で避難港でもあり、緊急時対応の上架場が必要である。

来年度以降の漁場の海底耕耘事業について

米沢

20年来の海底耕耘事業の取り組みと状況について伺いたい。

産業理事

海底耕耘事業は、底生魚介類の生育環境を改善し、漁獲量の安定維持を目的に実施。平成11年度～30年度までの総事業費は8億4千950万円、耕耘面積は8万8千302ヘクタールとなっている。

米沢

これまでの海底耕耘事業の効果について伺いたい。

産業理事

海底耕耘事業の実施により生態系全体の生産力が改善し漁獲量が増大。赤ガレイの年間漁獲量は600～900トン、カニの年間漁獲量は300トン前後を維持し、ズワイガニ生息域でも好影響が見受けられる。

米沢

来年度以降の事業継続に努めていた

田中

来店者に対して、越前町のいい所を最大限にPRをお願いする。

許される工期

田中

給食センターの工期が遅れることにより、指定管理者との契約、職員のさまざまな対応等が発生している。民間では、納期と単価を守れない契約をすると、後で違約金などを払うとか、単価の見直しが普通の一般的な考え方の契約だと思うが、工期延長についての考え方を伺う。

町長

工期内に完成できなかった場合のペナルティといった趣旨だと思うが、越前町財務規則第137条契約の解除においては、契約を履行しないとき、または契約期間内に履行の見込みがないとき等は、契約を解除することができると規定し、一方で、同規則第135条契約期間の延長において天災、その他契約者の責めに帰すことのできない事由により、契約期間に契約を履行することができな

きたく、町長に伺いたい。

町長

町では福井県沿岸海域の生態系の維持と回復、水産資源の増加を図るため、昨年度より国・県に対し10年間の継続事業として事業支援を要望している。

米沢

海底耕耘は資源を守り、漁業者を守り、若い船頭たちの未来を守る事業であるので、長いスパンでの尽力と事業継続をお願いしたい。

越前漁港のハサップ対応荷捌き所について

米沢

現在の越前漁港内の荷捌き所の整備状況と競り市の状況について伺いたい。

産業理事

現在、越前漁港での競り市は小樟及び大樟荷捌き所で実施。平成8年に競り市一元化のため町漁協が大樟荷捌き所に上屋を整備。現状は手狭で支障を来し直接地面上に魚介類を並べるなど非衛生的運用で競り市場としての機能は良い状況ではない。

米沢

敦賀漁港のハサップ対応市場の整備状況について伺いたい。

産業理事

ハサップとは食品等の製造出荷工程での微生物や遺物混入を予測分析被害を

みんなの足はどうなる？

田中

少子高齢化社会を迎えてのコミュニティバスの運営について、今後の見直しの方針は。

町長

運行の考え方については、路線バスもコミュニティバスも毎年多額の補助金や委託料を払っており、車両の台数や運転手の人数を考えると、これ以上の増便はできない。今後、新しい公共システムの構築に向けて、町民の皆さんの意見を聞き、高齢者や高校生など、交通手段を持たない人にも有効で利用しやすい交通手段を提供していきたいと考えている。

越前町の顔は誰

田中

町長が行っているトップセールスについて伺う。

未然に防ぐ管理方法。敦賀水産卸売市場は延べ床面積3千330平方メートル、8億8千500万円で敦賀市漁協が事業主体となり平成21年4月に竣工。仕分け場等、衛生管理設備等を整備し完全密閉型市場となっている。

米沢

ハサップ導入のメリットと課題について伺いたい。

産業理事

メリットは水産物の安全性の向上、越前ブランドの付加価値を高め産地間競争力が向上し、観光客の誘客効果も期待できるが、施設整備には高額費用を要し施設の維持管理体制の構築が大きな課題になる。

米沢

今後のハサップ対応荷捌き所整備への取り組みについて、町長に伺いたい。

町長

越前ブランドの付加価値を高めるためにも、ハサップ対応荷捌き所整備は必要と考えるが、漁業者等の関係者が同じ意識をもって取組むことが大前提であり、町漁協を初め関係者との協議を深め事業化への取り組みを検討したい。

米沢

ハサップ対応市場は産地間競争力の向上、誘客効果、安全安心を提供するためにも是非とも必要な荷捌き所であり、早期に前へ進めていただきたくお願いしたい。

町長

越前陶芸まつりの知事の挨拶で、株式会社村田製作所社長とトップ会談が行われたことを聞いた。これまでに、福井村田製作所とおして面会を申し入れているが、社長とは一度もお会いしていない。役員の方々は就任以来、意見や情報の交換をしているので、村田社長とも、ぜひ会談ができるよう今後も働きかけていきたい。アプローチとしては、6月5日に福井県産業労働部職員と本町の職員が福井村田製作所武生工場を訪問した。

観光誘客を目的としたトップセー

ルスについて、平成29年7月11日から福井県町村会の台湾インバウンド研修では、福井県内8町のお薦め旅行素材やモデルコースを紹介し、旅行会社等と意見交換を行った。また、11月11日から12日にかけては、静岡県富士宮市で開催された第27回織田信長サミットにおいて越前町を宣伝するなど、機会あるたびに、町長としてトップセールスを行ってきた。

ここで、トップセールスというところについての私の考えは、何でもトップセールスというが、私はトップの話し合いだと思っている。

田中

人口問題等からもトップ会談をし、雇用機会の創出等を進めて町民の生活が向上する方向で、要望として質問を終わらせていただく。

議会・委員会・一部事務組合等議員出欠状況

(3月24日～6月15日)

○…出席 ×…欠席 △…遅刻早退

月日	曜日	諸 会 合 名	北島 議長	笠原 副議長	高田 議員	南 議員	藤野 議員	米沢 議員	田中 議員	佐々木 議員	齋藤 議員	伊部 議員	青柳 議員	木村 議員	吉村 議員
4	2 月	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	6 金	町内小中学校入学式	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 火	議会広報特別委員会	—	—	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	○
	19 木	議会運営委員会	○	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	—	○
5	7 月	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24 木	議会運営委員会	○	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	—	○
		臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	26 土	越前陶芸まつり開催式	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	1 金	議会運営委員会	○	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	—	○
	4 月	議員月例会	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○
	11 月	総務文教厚生常任委員会	○	—	—	○	○	—	—	○	—	○	○	—	—
	12 火	6月定例会 本会議 (1日目)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	13 水	6月定例会 本会議 (2日目)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14 木	6月定例会 全員協議会 (現場踏査)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		6月定例会 本会議 (3日目)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	15 金	議会広報特別委員会	—	—	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	○

< 6月定例会現場踏査の様子 >



劔神社前通りの消雪施設の工事現場



大雪被害支援の事業現場



長寿命化を図るための橋梁補修工事現場



統合学校給食センターの建設事業現場

いっぱん質問

一般質問とは、議員が行財政全般にわたって町に疑問点をだし、所信の表明を求めるもの



南 中かり 議員

免許返納後の高齢者の交通デザイン計画は

南 免許の自主返納後の高齢者に対応できる交通デザインの計画はあるのか。

総務理事

近年、日本各地で交通のユニバーサルデザイン化が進められており、高齢者や障がいを持つ方にも優しい施設、公共交通網が求められている。しかし、本町は、現時点では、高齢者を対象にした交通デザインの計画というものはない。

南

ユニバーサルデザインは積極的に取り入れていただきたい。各地で高齢者への交通は取り組み始めているので、よいところを参考にしてほしい。

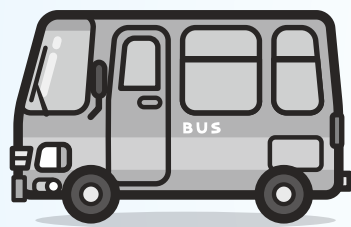
交通デザインという言葉を使用した理由↓今後の越前町のニーズに合わせた交通システムを新しくつくっていく時期が来ている。今ある資源、材料、人材を生かしながら、環境やユニバーサルデザインに配慮するとともに、町に活気にぎわいをもたす交通を、官と民が協力して皆でつくっていくという意味で交通デザインという言葉を使用した。

高校生等通学の交通デザインについて

南 部活動をする高校生は最終バスに間に合わず、保護者が毎日高校や駅まで迎えに行っている現状があり、高校通学のために町外へ引越す家族もある。バスを利用している学生の意見、要望を聞き取り、交通デザインに活かすことはできないか？

総務理事

毎日バスを利用する学生の意見、保護者の意見、要望等について、路線バスの運行事業者がアンケート調査等を実施しているか確認し、その内容と対応状況を聞き取り、調査を行っていないなら、早急に調査するよう依頼する。そのアンケート結果をもとに、路線バス事業者に対して、運行ダイヤの改正について町の地域公共交通会議等で要望する。



観光立地を目指すための交通デザインについて

南 鯖江織田線を通り、JR鯖江駅まで交通デザインでつなぐ予定は今後あるのか？

総務理事

丹南地区の5市町が組織する丹南広域観光協議会で既に検討に着手している。北陸新幹線南越駅設置促進期成同盟会では、今後、新幹線を初め、在来線の駅からの交通ネットワークについても検討を始めることとなっている。鯖江織田線の交通デザインについては、今後の交通デザインを進める上で、大変重要なので、検討課題とする。

南

語り部の方や観光案内コンシェルジュを盛り込み、乗ることが楽しくおしゃれでわくわくするサービスなど具体的な計画はあるのか？

総務理事

近隣のJR、私鉄、路線バス、レンタカーのメリット、デメリットをカバーしあい、これらをうまく組み合わせ、本町に合ったシステムをつくるということが大事だと考える。

南

交通デザインのビジョンについて、町長の所見を伺う。

町長

交通デザインという言葉は、私の今の思いと一致していて、いい名前だと思うので、これから使っていきたいし、そういう形で考えたい。

これまでの公共交通とは路線バスの補完というようなイメージが強い。これからは、高齢者や小学生か、あるいは免許を持っていない人か女性の方か、人がどこへ何をしに行くかで、その移動手段が変わるというような形になるので、まず人を中心に考えたい。

南

今ある資源も活用しつつ、広く工夫や要望を取り入れる場を作り、越前町ならではの交通デザインを、官民一丸となって作り上げていくことをお願いして、質問を終わらせて頂く。

いっぱん 質問...その後

一般質問の答弁が、その後どのように町政に反映されているのかを調査しました。

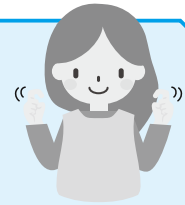
越前町の聴覚障がい者への窓口対応と手話普及の取り組みは

役場庁舎の窓口で、タブレットや通訳者の設置を導入するなど、環境を整備して欲しい。
(平成30年3月定例会・南ゆかり議員)



答弁

聴覚障がい者の方々の実情や要望を伺いながら、タブレット端末の導入に取り組み、また、手話奉仕員の養成と手話通訳者の人材育成に取り組みたい。



- 役場庁舎の窓口では、聴覚や言語に障がいのある方と手話と筆談で意思疎通を行っている。福祉課には簡単な手話ができる職員4名を配置している。
- 平成29年度の手話通訳奉仕員養成講座（2年課程：入門編、基礎編）の入門編修了者は14名で、このうち職員は3名であった。今後も講座を継続し、受講者を増やしていきたい。
- 役場庁舎の窓口へのタブレット端末の導入については、越前町聴覚障害者協会の要望を聴き、利用者の利便性を考慮し進めている。

子育て支援におけるニーズの把握について

子育て支援に関するニーズ把握の在り方は。子育て支援における情報公開を進めてほしい。
(平成29年9月定例会・高田浩樹議員)



答弁

相談体制を整え、子どもや保護者のニーズをきめ細かく丁寧に把握し、よりよい子育て支援につなげていきたい。子育て支援に関する情報を積極的に公開していきたい。



- 平成30年4月から子育て世代包括支援センターを開設した。子ども・保護者の事情、悩みや不安を聴き取り、子育てに関するニーズを把握し、子育てを支援している。
- 「子育て支援情報誌」を改版し、窓口を設置した。また、ホームページで公開している。
- 「第2期子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けたニーズ調査を行い、その結果や子育て会議の審議を踏まえて、子育て支援策のホームページ公開に努める。



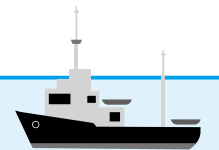
底曳き網漁船の老朽化への支援対策は

本町の小型底曳き網漁船の半数が船齢35年を超えており、県と連携して老朽化した漁船の更新費用を支援することができないか。
(平成29年9月定例会・米沢康彦議員)



答弁

意欲ある漁業者が、将来にわたり漁業に取り組めるよう、また、漁獲高の確保に向けた漁船数を維持するためにも、町漁協とも連携し、漁船更新の支援策を検討する。



- 町漁協と協議し、漁業の担い手の状況や今後の漁船数の見込みなどを把握し、適正な漁船数を確保するための支援策を検討している。
- 平成31年度に県の助成制度の要望を伺っているが、事業費が高額なことから、町負担分の財源を確保することで、可能な支援を検討している。
- 県の助成事業の期間は、平成31年度までとなっているので、今後制度の適正な運用と公平性を確保するためにも事業継続を強く要望していく。

越前町独自の子育て支援策について

越前町独自の特徴ある事業で目に見えるような子育て支援策が考えられないか。
(平成29年9月定例会・藤野菊信議員)



答弁

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない母子保健と子育て支援に取り組めるよう、子育て支援の拠点づくりをより充実させたい。



- 安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを進め、次世代を担う子ども達が健やかに成長できるよう、平成30年4月から子育て世代包括支援センターを開設した。
子育て世代包括支援センターでは、子ども・保護者の実情・困りごと・悩み・不安を聴き取り、育児・子育てに関するニーズを把握することにより、一人ひとりに寄り添い、顔の見える支援を提供している。





ローカルクリエイターズ～cococrew～

6月2日、宮崎地区古熊谷にて、越前町若者移住促進プロジェクトチームによる田植えイベントが行われました。



チームリーダーであり、八田在住の若手農家「井上高宏さん」にインタビューしました。

「たくさん参加者ですね。」

参加者が30人と多く、年齢も幅広く、県外からも来ていただきました。

「参加者の感想は？」

「DJの軽快な音楽で、楽しく田植えの経験が出来た。」

「田植え後、皆で古熊谷散策をしたが、大自然や歴史にふられて良かった。」

「無農薬米のおにぎりが美味しかった。」

などの声がありました。

「どのような思いで活動されていますか。」

豊かな自然や陶芸などの産業の魅力が町内外の方々に知ってもらい、越前町に住んで、新たな活動をしたいというプレイヤーを増やしていきたいと思っています。



「今後の活動予定を教えてください。」

8月18日(土)に織田陶房わづみ館にて越前焼陶芸体験イベントが行われます。弦楽コンサートもお楽しみいただけますので、是非ご参加ください。

〈インタビュー〉南

お問い合わせ
定住促進課

☎34-8727

傍聴席へどうぞ 次の議会は 9月です

(日程については、議会事務局にお問い合わせください) TEL.0778-34-8712

編集後記

7月の西日本豪雨では、町内にも避難勧告等が発令され、緊張が走りました。各地区で土砂崩れが起きて生活に不便をきたしましたが、人的被害がなかったのはせめてもの救いでしょうか。度重なる自然災害に慌てず対処できるよう、日頃から備えておく必要があることを痛感しました。

さて、8月25日にはおたまつり&O・T・A・I・K・O響が開催されます。また、10月には福井しあわせ元気国体が近づいてまいりました。一人一人が様々なかたちで応援して盛り上げ、成功させたいものです。

今後も議会だよりが読みやすく、皆様に親しんでいただけるよう、努めてまいります。

(南)

◆議会広報特別委員会◆

委員長 田中 太左エ門
副委員長 藤野 菊信
委員 吉村 春男
佐々木 一郎
米沢 康彦
南 ゆかり
高田 浩樹

バックナンバーが町のホームページでご覧いただけます

<http://www.town.echizen.fukui.jp/chousei/04/index.html>

